

平成13年（2001年）3月

アルテルナンテラ ポリゲンス種

(*Alternanthera porrigens* Kuntze Revis.)

3. 特性審査基準（案）

（1）特性審査基準（案）

*備考欄の数値はおおよその目安である

重要な 形質	形 質	定 義	調査 方法	状態又は区 分	階 級	標 準 品 種	備 考
草姿	1.草型	開花最盛期（開 花始めから1ヶ 月後）の全体の 草姿	観察 図1	立ち型 中間型 横張型	1 2 3		
草丈	2.草丈	開花最盛期の地 際からの植物体 の先端までの高 さ	測定 (cm) 図2	低 中 高	3 5 7		
茎の形 状	3.茎の太さ	開花最盛期の最 大二次分枝の中 間部の太さ	測定 (mm) 図2	細 中 太	3 5 7		5
	4.茎の色	開花最盛期の最 大二次分枝の中 間部の色	観察	灰緑 黄緑 淡緑 緑 濃緑 その他	1 2 3 4 5 9		
	5.茎のアント シアニンの 発現の有無	開花最盛期の最 大二次分枝のア ントシアニン発 現の有無	観察	無 有	1 9		
	6. 茎の毛の有 無	開花最盛期の最 大二次分枝の毛 の有無	観察	無 有	1 9		
	7.節間長	開花最盛期の最 大二次分枝の中 間部の節間長	測定 (cm) 図2	短 中 長	3 5 7		10
	8.葉形	開花最盛期の最 大二次分枝の中 間部の葉の形	観察 図3	披針形 長楕円形 倒卵形 卵形 楕円形 その他	1 2 3 4 5 9		

重要な 形質	形 質	定 義	調査 方法	状態又は区 分	階 級	標 準 品 種	備 考
葉の形 状	9.葉の先端 の形	開花最盛期の最大二次分枝の中間部の葉の先端の形	観察 図 4	鋭形 微突形 突形 その他	1 2 3 9		
	10.葉の基部 の形	開花最盛期の最大二次分枝の中間部の葉の基部の形	観察 図 5	漸先形 くさび形 鈍形 その他	1 2 3 9		
	11.葉長	開花最盛期の最大二次分枝の中間部の平均的な葉の長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7		15
	12.葉幅	開花最盛期の最大2次分枝の中間部の平均的な葉の幅	測定 (cm)	狭 中 広	3 5 7		5
	13.葉の表面 の色	開花最盛期の最大二次分枝の中間部の葉の表面の色	観察	黄緑 淡緑 緑 濃緑 その他	1 2 3 4 9		
	14.葉の裏面 の色	開花最盛期の最大二次分枝の中間部の葉の裏面の色	観察	灰緑 黄緑 淡緑 緑 濃緑 その他	1 2 3 4 5 9		
	15.葉の表面 のアントシアニンの発 現の有無	開花最盛期の最大二次分枝の葉の表面のアントシアニンの発現の有無	観察	無 有	1 9		
	16.葉の毛の 有無	開花最盛期の最大二次分枝の中間部の葉の毛の有無	観察	無 有	1 9		

重要な 形質	形 質	定 義	調査 方法	状態又は区 分	階 級	標 準 品 種	備 考
花の形 状	17.花穂の着 生位置	植物体全体から みた花穂の着生 位置	観察 図 6	頂部 頂部と頂部 以外	1 2		
	18.花穂の形	開花最盛期の最 大二次分枝の最 大花穂の形	観察 図 7	円筒形 円錐形 その他	1 2 9		
	19.花穂の 長さ	開花最盛期の最 大二次分枝の最 大花穂の長さ	測定 (mm) 図 8	短 中 長	3 5 7		10
	20.花穂の幅	開花最盛期の最 大二次分枝の最 大花穂の長径	測定 (mm) 図 8	狭 中 広	3 5 7		10
	21.花穂の色	開花最盛期の最 大二次分枝の最 大花穂の色	測定	J H S カラ ーチャート の色票番号 による			
	22.花 穂 の 数	開花最盛期の最 大二次分枝の花 穂の数（二番花 は除く）	測定 (個)	少 中 多	3 5 7		
	23.一 花 穂 に おける小花 穂の数	開花最盛期の最 大二次分枝の一 花穂における最 も多い小花穂の 数	測定 (個)	少 中 多	3 5 7		5
早晩性	24.開花期	40～50%の 株が開花した時 期	観察	早 中 晩	3 5 7		

(2) 特性審査基準 (案) 参考図

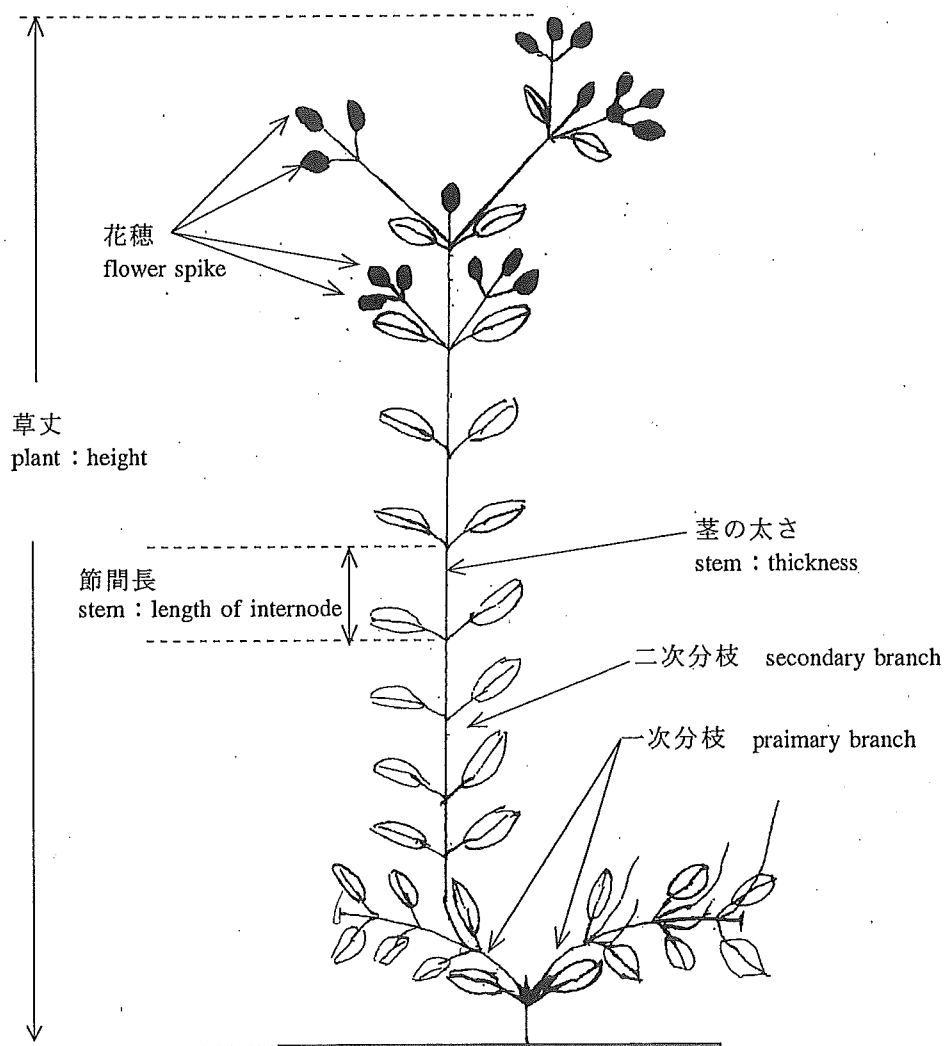
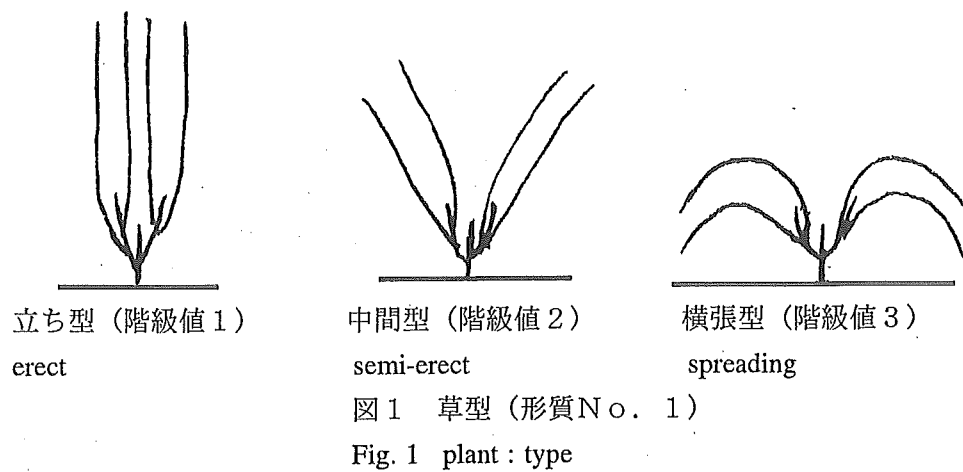
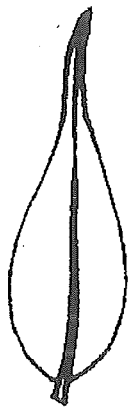
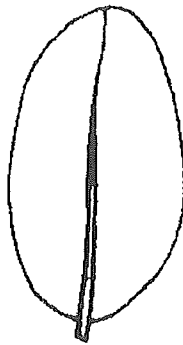


図2 全体図 (形質No. 2、3、7)

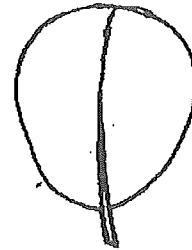
Fig. 2 plant



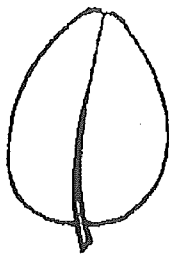
披針形 (階級値 1)
lanceolate



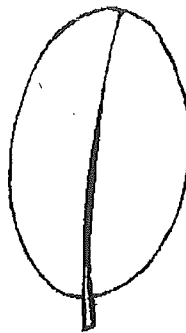
長橢円形 (階級値 2)
oblong



倒卵形 (階級値 3)
obovate



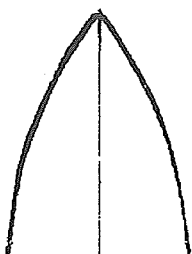
卵形 (階級値 4)
ovate



橢円形 (階級値 5)
elliptic

図 3 葉形 (形質 No. 8)

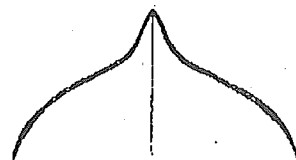
Fig. 3 leaf : shape



鋭形 (階級値 1)
acute



微突形 (階級値 2)
mucronate



突形 (階級値 3)
cuspidate

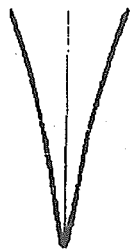
図 4 葉の先端の形 (形質 No. 9)

Fig. 4 leaf : shape of apex



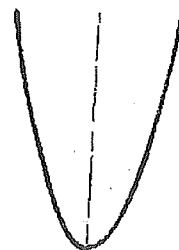
漸先形（階級値 1）

attenuate



くさび形（階級値 2）

cuneate

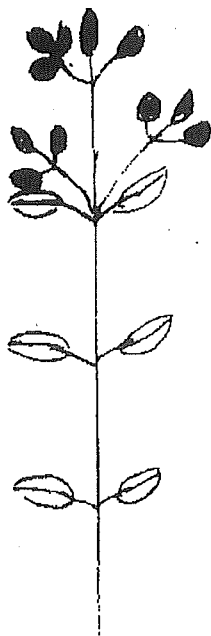


鈍形（階級値 3）

obtuse

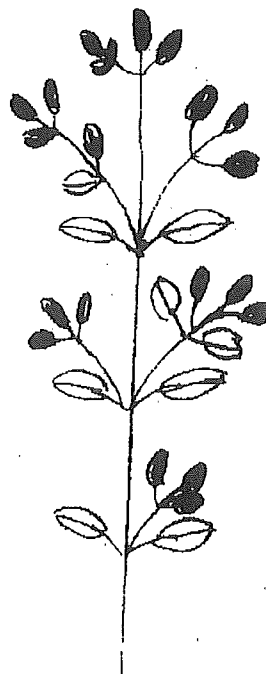
図 5 葉の基部の形（形質 N o. 1 0）

Fig. 5 leaf : shape of base



頂部（階級値 1）

top



頂部と頂部以外（階級値 2）

top and except for top

図 6 花穂の着生位置（形質 N o. 1 7）

Fig. 6 flower spike : position



円筒型（階級値 1）
cylindrical



円錐形（階級値 2）
conical

図 7 花穂の形（形質No. 18）

Fig. 7 flower spike : shape

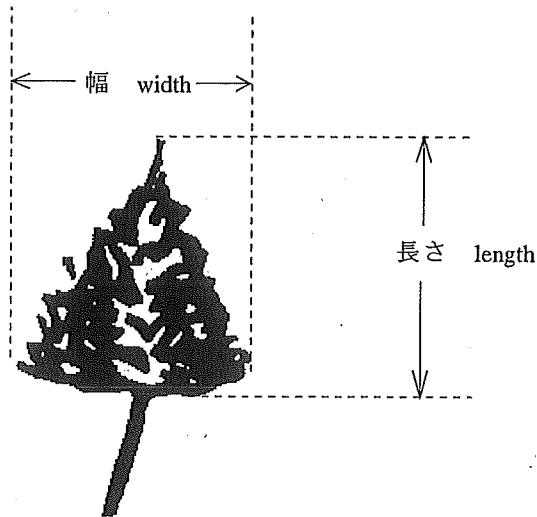


図 8 花穂の長さ、幅（形質No. 19, 20）

Fig. 8 flower spike : length , width

(3) 英語翻訳

No.	Characteristics	State	Note	Example varieties	Remarks
1	Plant : type (Fig. 1)	erect semi-erect Spreading	3 5 7		
2	Plant : height (Fig. 2)	low medium height	3 5 7		
3	Stem : thickness (Fig. 2)	thin medium thick	3 5 7		5
4	Stem : color	grayish green yellowish green ligh green green dark green other	1 2 3 4 5 9		
5	Stem : Anthocyanin coloration	absent present	1 9		
6	Stem : pubescence	absent present	1 9		
7	Stem : length of internode (Fig. 2)	short medium long	3 5 7		10
8	Leaf : shape (Fig. 3)	lanceolate oblong obovate ovate elliptic other	1 2 3 4 5 9		
9	Leaf : shape of apex (Fig. 4)	acute mucromate cuspidate other	1 2 3 9		
10	Leaf : shape of base (Fig. 5)	attenuate cuneate obtuse other	1 2 3 9		

No.	Characteristics	State	Note	Example varieties	Remarks
11	Leaf : length	short medium long	3 5 7		15
12	Leaf : width	narrow medium broad	3 5 7		5
13	Leaf : color of upper side	yellowish green ligh green green dark green other	1 2 3 4 9		
14	Leaf : color of lower side	grayish green yellowish green ligh green green dark green other	1 2 3 4 5 9		
15	Leaf : anthocyanin coloration of upper side	absent present	1 9		
16	Leaf : pubescence	absent present	1 9		
17	Flower spike : position (Fig. 6)	top top and except for top	1 2		
18	Flower spike : shape (Fig. 7)	cylindrical conical other	1 2 9		
19	Flower spike : length (Fig. 8)	short medium long	3 5 7		10
20	Flower spike : width (Fig. 8)	narrow medium broad	3 5 7		10
21	Flower spike : color	JHS color chart No.			
22	Flower spike : number of flower spike	few medium many	3 5 7		

No.	Characteristics	State	Note	Example varieties	Remarks
23	Flower spike : number of small flower spike in a flower spike	few	3		
		medium	5		
		many	7		
24	Flowering time	early	3		
		medium	5		
		late	7		

4. 特性検定のための栽培試験方法

(1) 栽培基準

- ①栽培条件 加温施設内での地植え栽培
栽培試験中は、10℃以上に保つこと。
- ②さし芽 7月上旬に1節のさし穂をさし芽する。
- ③用土 市販の園芸用培養土に赤玉土を混合し用土とする。
- ④移植 発根後（さし芽後約2週間目）に移植する。
- ⑤定植 移植後2～3週間目に定植する。
- ⑥摘心 一次分枝を3節残して摘心する。
- ⑦栽植密度 株間は60cm程度とする。
- ⑧施肥 元肥無しで、生育状況により追肥する。
- ⑨倒伏防止 倒伏するので、茎の伸長にあわせて倒伏防止用のネットを張る。

(2) 供試株数 1区15株 2反復

(3) 栽培及び調査に当たっての留意事項

- ①耐寒温度は－3℃、越冬温度は5℃で、10℃以下になると紅葉する。
- ②短日性植物で電照により花芽分化が抑えられる。
- ③水分については適用範囲が広い。
- ④病虫害の被害は少ないが、ヨトウムシ、オンシツコナジラミ、アブラムシには注意する。
- ⑤徒長しやすいので注意する。
- ⑥開花とは開葯した時のことである。

5. 参考文献

Flora of Ecuador , no.28 (1987) 84-91

園芸植物大事典（1994）小学館 第1巻 163－164 塚本洋太郎総監修